

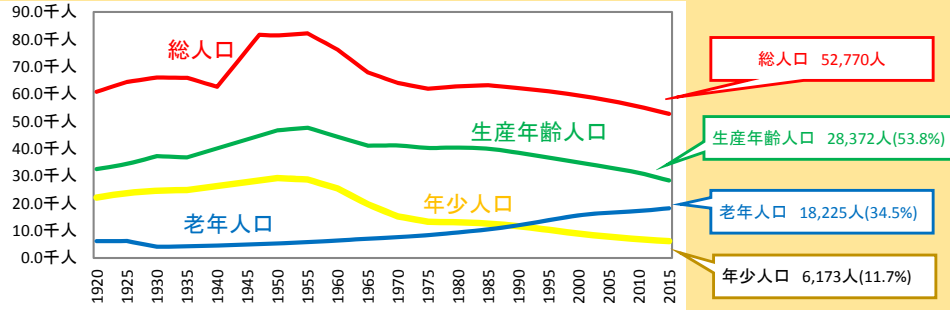
山鹿市長期人口ビジョン【概要版】

I 人口の現状

【2014年の人口】(総務省人口推計より)

- ◆全国 ⇒ 1億2,708万人
- ◆熊本県 ⇒ 179.4万人
- ◆山鹿市 ⇒ 5.3万人

年齢3区分別人口の推移



【人口ビジョンの基本的な考え方】(これまでの人口動態と長期的な人口展望)

- ・本市は第一次・二次ベビーブームを経て、出生数・死亡数が同時に減少する「少産少死」型へと移行、また、高度経済成長期に多くの転出(若年層)があり、その後1990年頃までは高齢者の長寿命化により自然増を維持。
- ・2000年代以降は、出生数が更に減少し、高齢世代の死亡数が増加「少産多死」型へと移行したことで自然減に転じた。
- ・今後は、高齢世代の減少が続くことにより、当分の間、人口減少が進むものとする。
- ・高齢世代の減少による人口減少が進んだ後、死亡による自然減要因が弱まることとなる。

【本市の将来人口推計】

- ・国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)によると、少子化と高齢世代の減少による自然減、若年層の転出に伴う社会減により、当分の間人口減少が続くことになるが、一刻も早く対策を講じた場合と、そうでない場合、2060年頃の本市の人口は38,000人から28,000人程度まで約1万人の差が生じるものと推計される。
- ・この対策として、出生率の上昇と域外への社会流出の抑制等により、バランスのとれた年齢別人口構成(社会の若返り)を図るとともに、人口減少社会に対応した社会・経済システムを構築する必要がある。
- ・これらのことから、本市の目指す将来人口の推計にあたっては、社人研の将来推計を参考としながら合計特殊出生率の上昇、GDP適正規模の確保を基本として推計する。

①自然増減【2014年】

- ・合計特殊出生率 1.64 (全国1.42、県1.64)
- ・高齢化率 33.9% (全国26.0%、県28.0%)

②社会増減【2012年】

- ・転出超過先: 熊本市137人、菊池市49人、福岡県32人 ⇒ 転出超過の半数が熊本市
- ・転出超過の主な年齢層: 15歳から24歳172人 ⇒ 転出超過は若年層に集中

II 人口の将来展望

2040年の人口 44,000人(中期)

2060年の人口 38,000人(長期)

このまま対策を講じなかった場合、2060年の人口は、28,556人まで減少

(国立社会保障・人口問題研究所推計)

【人口減少が及ぼす影響】

- 生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小
- 地域活動の担い手の減少に伴う伝統的生活文化の衰退、地域自治活動の維持困難
- 耕作放棄地の増大、森林の荒廃、河川・湖沼・地下水の水質汚濁等、自然環境、生態系の変化
- 医療福祉分野の労働力不足(医療提供体制の弱体化)、一方では老年人口の増加に伴う社会保障費の増大

目指すべき将来の方向

人口減少社会に対応した社会・経済システムの構築と“ゆたかさ”と安心の実現

【将来展望の仮定】

- ◆合計特殊出生率 2040年 1.8



【将来展望】

- ◆2060年の人口 38,000人

山鹿市人口推計の将来展望

